

おおず

2020～2021年

Ozu
Lions
Club

September

2020
No.431

9

国際会長テーマ

「 We Serve 」

336-A 地区スローガン

「 誇り・挑戦・進化・輝く未来にウィサーブ 」

クラブ会長スローガン

「 楽しんで、地域と共に We Serve 」

336-A 地区 3R 地区ガバナー公式訪問に出席して 菊池 敏則

令和2年9月6日、台風10号が迫る中、酒井ガバナー他9人のキャビネットメンバー、庄司RC他9人の3R役員、3Rの各クラブメンバー65人（宇和島ライオンズクラブは台風のため欠席）、総勢85名の出席で地区ガバナー公式訪問が宇和文化会館で開催された。

【ガバナーあいさつ】

冒頭の酒井ガバナーのあいさつで、就任依頼2ヶ月が経過するが、新型コロナの影響で会合、研修が十分出来ない、9Rではウェブ会議をしている。このような今までにない運営をしているキャビネットの苦労話があった。 今年の、ガバナースローガンは「誇り・挑戦・進化・輝く未来にウィサーブ」でキーワードは「会員ファースト」。クラブ内のコミュニケーションを充実させ手を取り合って推進していくことが重要と話された。「会員ファースト」は大いに共鳴するところであった。 特に会員増強については、まず会員を減らさないこと。増強は、相互に声かけをして皆で取り組むこと。3名以上の会員増強が図ればお礼に駆けつけることなど時間をかけて話をされた。

【キャビネットより】

- ① 月末に正会員の数をゾーンの方へ報告すること。変更がなくても報告のこと。
- ② I C I Fキャンペーンは3年目になる。現在5クラブが達成している。他は20\$、ゼロのクラブは5クラブとなっている。理解をしていただいている。お願いしたい。
- ③ 各クラブでアラート委員会の設置をお願いする。
- ④ ヘアードネーション3年目を迎えた。15cm～31cmでお願いする。
- ⑤ 本年は、公園等の清掃をお願いしている。地区の情報は既に報告いただいている。アワードの対象としているので実施後報告をお願いする。



【各クラブの発言】

各クラブとも本年の活動方針と会員増強、I C I Fについて簡単に述べた。

大洲としては、各クラブと同様に本年の活動方針、会員増強を述べ、I C I Fについては、具体的な使途、金額のフィードバック及び災害時の使途を限定しない一定金額の送金等の提案をした。

【ガバナー総括講和】

- ① 日本ライオンズより熊本水害に1000円、ベイルートの爆発災害に500円の救援金の要請がきている協力をお願いする。
- ② 地域の清掃をお願いしているが、クラブで障害保健を掛けることを検討願いたい。
- ③ アラートチームの組織表等を作成している。各クラブで災害時に支援できる人、拠出できる人、拠出できる物、会員を募っている。 早2ヶ月経過した。今後ともよろしく願います。

台風が近づいて来ているため、すべての行事について時間を短縮して2時間程で終了し、皆早々に帰路についた。

会長 菊池 敏則





令和2年9月5日(土) 観光ふじブドウ園において開催された、「内子LCぶどう狩り交流例会」に、菊池会長、久保幹事、中野会員委員長と共に参加致しました。

前日大洲で夜例会、翌日宇和でガバナー公式訪問がある中でしたが、毎年気になっていたぶどう狩りが休日に開催されるということで、迷わず(初めて)参加しました。

例会では、還暦・古希・喜寿・傘寿・米寿に結婚50周年の方々の表彰もあり、クラブの歴史を支えられてきたメンバーが元気な姿で受賞されていました。

台風前日の蒸し暑い中でしたが、よく熟れた「ニューベリーA」や珍しい品種「瀬戸ジャイアンツ」などのぶどう3種と、バーベキュー、ビールにワインや焼酎まで美味しくいただくことができ、大変楽しい一日となりました。

牡蠣例会で有名な愛南LCからも4名参加されましたが、翌日の台風の備えはできているのか、若干心配でした。

佐々木 健一

8月6日に「WITH コロナ時代！非接触型ツールのご提案」という議題でオンライン商談の勧め方について勉強会がオンラインで行われました。

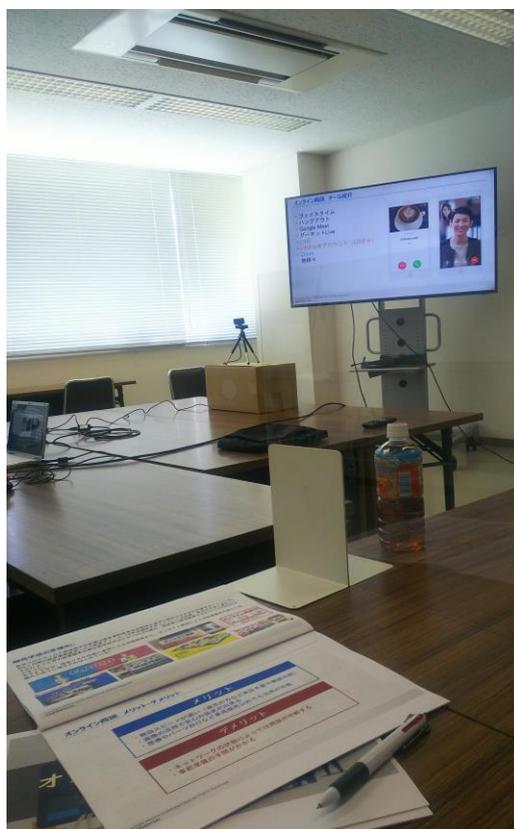
Zoom を使って愛媛の各所から約 10 人の参加があり、松山へ行って参加をしたのは私も含めて 2 人でした。

松山の会場では、画面に映った参加者の姿を見ながら講義を進めていましたが、ときどき電波状態が悪くなり何度か調整をしていました。

講師の斜め後ろの居た私たちは画面にも映らないし zoom で参加していた人達は私たちの存在に気付いていません。

私の横の人は半分寝ていましたが誰も気づいていなかったと思います。オンライン会議に出席して感じたのは、その場所にいかなくてもいいので、時間や経費を省けるし、仕事場からでもできるので、仕事をしながらでもできて便利だったということです。

まだ、始まったばかりなので音声が悪いことや、人数が増えてきたら相手の顔や動きがわからずトラブルになることもあるのではないかと思います。活用してできることは多いと感じました。これから、こういった会議が増えてくるのではないかと思います。



私の姪が8月1日にリモートで結婚式をあげました。最初は、5月に行う予定だったのですが、コロナで8月に延期になり、規模も縮小して家族親戚だけで行うようにしていました。ところが、10日前に地元でコロナがでて結婚式はやめてもらうように言われて、泣く泣く式場と話し合っ、本人、両親、兄弟の家族だけで約20人の結婚式を行うことになったのです。

当日は、パスワードを教えてもらって、事務所でパソコンを用意して待ちました。始まってみると思ったよりいいものでした。

《 メリット 》

- (1) 祖母が89歳なので県外の結婚式には行けないと言っていたが参加することが出来た。
- (2) 行く必要がないので交通費がかからない。
- (3) 普段着で参加できる（正装の方もいました）ので気楽に参加できる。
- (4) 不特定多数の方が見れる。（デメリットのときもあります）
- (5) ドローンを飛ばしたりして、普通の結婚式では見れない映像がみれるし、座った場所によって見えないとかがない。
- (6) 私の場合は事務所で見ていたので仕事をしながら参加が出来た。（式が終わるまでは、こちらの音声に向かって聞こえないようにしていました）
- (7) 終わった後に一人一人に新婦が声をかけていたのである程度の話はできた。

《 デメリット 》

- (1) 直接お祝いの言葉が言えない
- (2) 話はあまりできない。
大勢でワイワイ話すことはできない(1対多数または1対1)
- (3) 相手側の方や知らない方と話す雰囲気にはならない
- (4) 宴会はできない
- (5) 結婚式を理由に新しい服を買えない

コロナが終息した後でも、仕事等の理由で来れない方がライブで式が見ることができると、これからも活用していくといろいろな利点がありそうです。

「歴史文化をうまく活かせば、大洲の救世主となる！」

— 大洲城キャッスルステイ・NIPPONIA HOTELを通して —



撮影：北村徹 画像提供：(株)KITA



大洲ライオンズクラブ 会報
令和2年9月

(一社)キタ・マネジメント事務局次長 村中 元

はじめに

この度、大洲ライオンズクラブ亀岡さんから会報への寄稿依頼をいただきました。とても光栄です。ありがとうございます。「長くなってもいいので、思う存分書いてくれ」ということでしたので、お言葉に甘えております。

また、日頃からライオンズクラブの皆様には、たいへんお世話になっております。特に、大洲城を復元した際には、皆様に強力なご支援をいただき本当に感謝をいたしております。その後、未だ一人前とはいきませんが、なんとか皆様に助けていただきながらお役目をいただいております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は現在、大洲市が出捐(しゅつえん)して設立した観光地域づくり法人(地域DMO)、一般社団法人キタ・マネジメントに併任という形で勤務しております。この法人は、大洲の歴史・文化などの地域資源を未来に残していくためにあります。ただ、残し方はこれまでの手法と異なり、ただ保存するのではなく「活用して残す」という方法になります。「歴

史的価値を経済的価値に変換させて、その対価をいただきながら残していく手法です。この手法が、特に人口減少著しい地方部において、今後文化財をはじめとした歴史的資源を保全する主流となってまいります。

大洲城キャッスルステイ

「自分が抱える困難に向き合う力を呼び覚ましてくれる場所でした...」
 これはある大洲来訪者の一言です。パワースポットのような印象ですね。
 実は「大洲城キャッスルステイ」で城主体験をされた方のコメントです。

「大洲城キャッスルステイ」は日本初の城泊（しろはく）事業として、2名1泊100万円のいわゆる「富裕旅行者」向けの旅行商品ですが、7月に初めてのお客様をお迎えしました。

ここで重要な点をご紹介します。

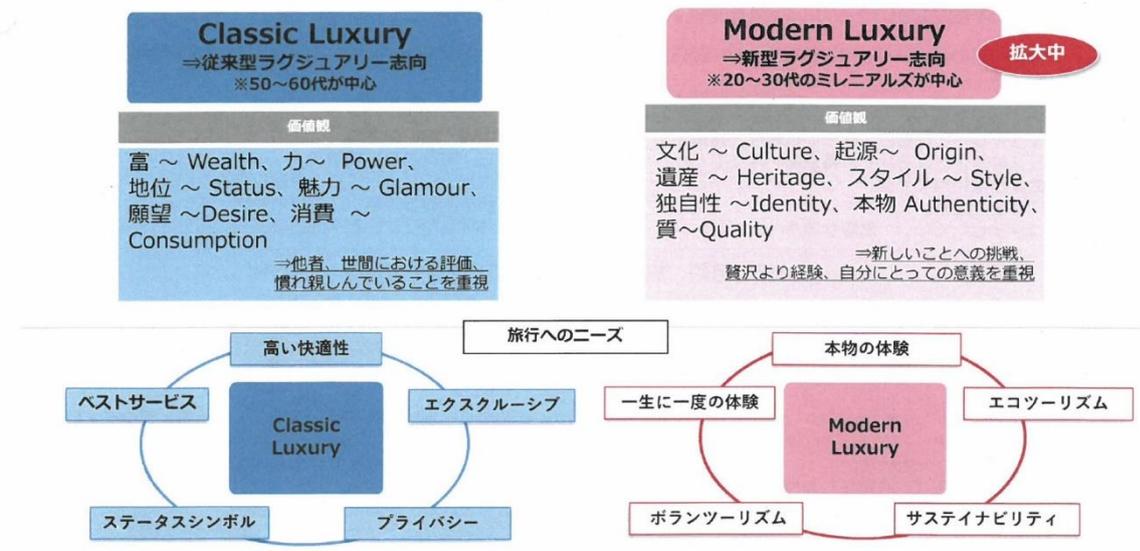
富裕旅行者についてです。

私たちは、つい富裕旅行者というと、お金持ちの「富、地位、権力、贅沢」といった価値観を持たれた方をイメージしてしまいます。旧来は、やはりそういう方も多かったようです。ところが、今の富裕旅行者はずいぶん価値観が異なってきています。「文化、遺産、独自性、本物、質」といった価値にこだわり、「新しいことへの挑戦」、「贅沢よりも経験」、あるいは「自分にとっての意義」などを求める傾向にあることが分かっています。ちなみに日本政府観光局は、前者をクラシックラグジュアリー、後者をモダンラグジュアリーと分類しています。（下図参照）そしていま、このモダンラグジュアリーの需要が拡大傾向にあります。

富裕旅行者の志向（マインドセット）

JNTO 日本政府観光局

「ラグジュアリー」の定義・価値観は変化・多様化しており、大きく分けるとClassic Luxury志向（従来型）とModern Luxury志向（新型）のマインドセットが存在。特にModern Luxury志向（新型）が拡大を続けている。



出典：日本政府観光局資料

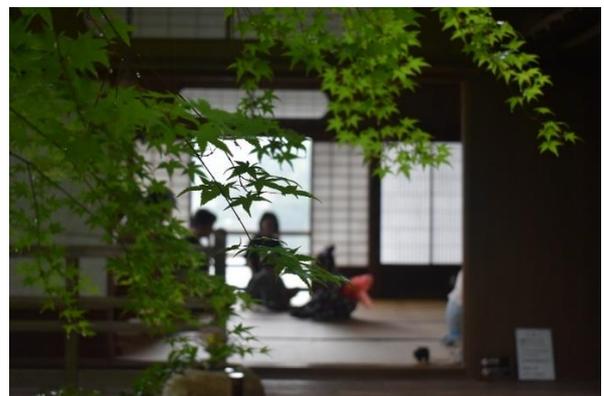
今回のお客様は6名のご家族だったのですが、地方の歴史やまちづくりに対して造詣が深く、15年前の大洲城天守の木造復元の価値や、今回の城泊の体験としての価値をよくご理解いただける方でした。こうしたプロジェクトを成し遂げてきた大洲城や大洲の地、そして市民の皆さんに直に触れたとき、おそらく先ほどの「困難に向き合う力」がご自身に湧いてこられたのではないかと思います。

私たちは、今後も上記のようなモダンラグジュアリー層をターゲットにした旅行商品をつくっていきたいと考えています。特に、大洲のように自然、歴史、文化の深いまちですと本物の体験が提供できますし、まちの規模としても大量の集客ができるものではありませんので、「一人当たりの消費額を高め、いく観光スタイルが合っている」と考えています。そのためには、魅力ある旅行商品だけでなく、世界に通用する上質なサービスの提供が重要となります。実は、今回大洲城キャッスルステイという日本で初めての事業に踏み切ったのも、G20などで実績のあるバリューマネジメント社（代表取締役 他力野 淳・大阪市）との連携により非常に質の高いサービスが提供できるからでもあります。

これまでの観光は旅行会社主導によるマストツーリズムが主であったので、どうしても観光客数を競う傾向にありましたが、これからの地方の観光のカギは、「提供するサービスの質を高める」ことで、生産性を高め、来訪者一人当たりの消費額を高め、いくことが重要なポイントだと思っています。その成果として、地域経済への波及が期待でき、また文化財の保全環境を整えることができるのです。



▲入城セレモニーの集合写真撮影



▲臥龍山荘を貸し切り、お呈茶体験

NIPPONIA HOTEL 大洲城下町

大洲城キャッスルステイが富裕旅行者をターゲットにしたいいわゆる「フラッグシップ」事業であるのに対し、城下町の町家など歴史的邸宅を活用したNIPPONIA HOTEL（ニッポニアホテル）は、町並みの衰退を止める役割と、観光客に宿泊を提供する役割とを持っています。また、すでに9月現在で社員5名、アルバイト15名の20名体制の運営体制により地域に雇用が生まれています。

NIPPONIAとは、兵庫県丹波篠山市で誕生した名称です。日本の地域固有の資産に生命を与え、地域を再生しようとする試みのコンセプト名です。自然や歴史文化、風土、暮らし、営みといった地域固有のものを大切にして、これらが未来に残っていくよう持続可能なビジネスモデルをつくっていくことになります。ですから、NIPPONIAは全国の複数箇所で展

開されています。「暮らすように旅する」というのは NIPPONIA が提供する主要な価値ですので、宿泊・飲食事業は NIPPONIA のビジネスモデルの核となります。

7月23日、大洲の城下町に残る歴史的邸宅の良さを生かして、大洲の歴史を感じ取れるホテルやレストランがオープンしました。運営は、キャッスルステイと同じくバリューマネジメント社です。バリュー社は、歴史的建造物を活用し宿泊・飲食・婚礼事業に実績があり、丹波篠山市などでも NIPPONIA の運営をしています。ホテル・レストランの単価は、ミドル層からアップミドル層をターゲットとしているため、やや高めとなっています。シーズンや部屋によって異なりますが、1泊2食で平均して1人当たり3万5千円くらいになります。7・8月の稼働率も、市民の皆さんの呼びかけや国の誘客キャンペーンのおかげもあり、このウィズコロナ期においては順調とのことでした。

この大洲の NIPPONIA 事業ですが、その趣旨は、取り壊されていく大洲城下町の町並みを守ることからスタートしています。3年半前の2017年の春、実は城下町の町並みは広範囲にわたり、取り壊しと更地化が計画される危機的状況でした。今でこそ何事もなかったように町並みが残っていますが、当時は所有者の皆さんの多くが維持管理に困り果て、取り壊しを計画されていました。そのため、所有者の皆さんと話し合いを行い、公共と民間が連携し、双方がリスクを負う形での事業のしくみを構築しました。



▲地域住民のボランティアで清掃や修繕活動を行いながら活用に向けて準備

(画像提供：NPO法人YATSUGI)

令和元年度1期目の事業として、8棟の建物を保全することができました。保全するだけでなく活用することにより雇用が生まれ、観光の宿泊客が増えました。さらには、客層の変化により、高品質のものが売れるようになり、観光消費額が増えました。これからも歴史的資源を保全・活用しながら、地域経済の好循環を創出できればと思っています。



▲NIPPONIA HOTEL オープニングセレモニー



撮影：北村徹 画像提供：㈱K I T A

▲旧いづみや別館 2階



撮影：北村徹 画像提供：㈱K I T A

▲旧浦岡邸宅群（大洲城上がり口）



画像提供：バリューマネジメント㈱

▲レストランではランチとディナーを提供

ランチ 2,500円・4,500円

ディナー 5,000円・8,000円

ご予約 0120-210-289（フリーダイヤル）



▲ 旧村上長次郎邸 2階

キタ・マネジメントの役割

Japan's first-ever hotel in a wooden castle breathes new life into fading rural town.

(日本初となる木造城郭での宿泊が、衰退する地方都市に新たな息吹を吹き込む。)



DESTINATIONS FOOD & DRINK NEWS STAY VIDEO

Japan's first-ever hotel in a wooden castle breathes new life into fading rural town

Maggie Hiufu Wong, CNN • Updated 13th August 2020



▲CNNのウェブサイト記事記事 「CNN OZU」で検索してみてください。全文が表示されます。「CNN 大洲城」で検索しますと日本語訳もあります。

これは、米国CNNトラベルがウェブサイトで大洲を紹介した表題です。キタ・マネジメント建築文化研究所のディエゴ所長がCNNとやりとりをしてくれました。全文はインターネットで検索してご覧になってください。fading「衰退する」という表現が用いられています。私たちには受け入れがたいことですが、人口減少の現実について触れられています。1955年79,000人いた大洲の人口ですが2020年で42,000人に大きく減少しています。また、このままだと2030年には35,000人、2040年には30,000人とさらに減少していくことが国の機関などにより推計されています。

私たちキタ・マネジメントの目的は、地域資源を未来へと残していくことにありますが、そのゴールとして観光まちづくりへの活用を通し地域経済の発展に寄与することを目標としています。歴史的資源をうまく活用し残していくことで、歴史的価値が経済的価値に変換され、そこに仕事や産業が生まれていくことを目指しています。

私たちは、これまで地域の方々をはじめ所有者の方々、多くの民間事業者の方々と接点を持ってまいりましたが、その過程で、歴史的資源とクリエイティブ（創造的）な感性をお持ちの方との相性がいいことが分かってまいりました。

人口減少を少しでも緩和していくためには、今の若い人たちに大洲で仕事をしてもらわ

なければなりません。また、大洲出身の方には大洲に戻ってきてもらわなければなりません。

ここで肝心なことを申し上げますと、今の若い人たちが希望する仕事とは、「生産性の高い、クリエイティブなもの」であるということです。また、「サステナビリティ（持続可能性）」が感じられることも重要です。若い人たちは、一人ひとりの能力が高く、発想が自由かつ多様であるため、発展的な仕事をつよく好むのです。

実際に、すでに城下町に事業進出をされている若い方もいらっしゃいますが、みなさん文化財や町並みなど歴史的資源を保全し、活用していくことに価値を感じ、ビジネスをなされています。歴史的資源は、今はやりのSDGsの感性をもつクリエイティブな若い人たちとの相性が抜群にいいのです。

【町並みを活用した事業進出の例】



画像提供：NPO 法人 YATSUGI

▲花の日々（旧高月邸）



▲商舗・廊 村上邸

このような若者の能力を発揮する場所は、これまで自ずと人口の集積する首都圏をはじめ都市部が多く、そこでは多様で新しい価値が創造されてきました。しかし、新型コロナウイルス対策による影響で地方にチャンスがやってきました。テレワークでも十分に仕事のコミュニケーションがとれるようになり、地方で仕事をする事自体が容易になりはじめました。ワーケーションという言葉もいたるところで見受けられ、働き方が大きく改革されることになりました。

地方で仕事をする事が当たり前になったとき、大洲出身の若い人たちに戻ってきていただきたい、と私は本気で思っています。世界中でデジタルシフトが促進される状況で、5Gに対応する光ファイバー網の全市整備も進みつつあります。次のステップは、価値観の研ぎ澄まされた若い人たちが集まってきやすい環境づくりが必要となります。

先日、NHKで『シン（新）・地方の時代』という特集番組が放送されました。「四国の未来」がテーマでした。ここで語られた結論のひとつは、コロナによって地方への移住やテレワークが促進される際の決め手となるのは「**地域の寛容性**」ということでした。

特に、若い人たちは私たちが想像もつかない新しい感性を持っています。既成の価値観の違いから新しい価値をつくる能力にも長けています。外国人と組んでどんどん新しいものを創造していきます。このようなことをひっくるめて私は「**多様性**」と考えるようにし

ています。「多様性を受け入れる地域の寛容性」、実際にはとても難しいことですが、まちの発展にどうしても欠かせない環境であると思っています。

現在、キタ・マネジメントの職員は、パート職員を含めて46名いますが、職員全員が地域のために、また地域の将来のために一丸となって頑張っています。このコロナ期において県外の方との接触の機会が多く、リスクの高い仕事ですが、大洲の観光の灯を絶やさぬよう覚悟をもって仕事をしています。また、ウィズコロナに対応した新しい観光スタイルの開発、アフターコロナを見据えた次の打ち手も日々考えながらチャレンジしています。お陰で大洲が活気づいていくのを私自身日々実感しながら仕事をさせていただいております。

「歴史文化をうまく活かせば、若者が戻ってきて、大洲の救世主となる!」

キタ・マネジメント職員一同、今後も歴史・文化などの地域資源をうまく活用して、大洲の未来のために邁進してまいりますので、引き続きライオンズクラブの皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

(キタ・マネジメント主な活動紹介)



▲スペイン国籍の水辺建築専門家、デイエゴ・フェルナンデス所長。欧米豪からのインバウンドに大洲の魅力を語る。日本語を含め7カ国語対応。



▲地域住民向けの物件視察。写真右端 企画課 井上課長(株K I T A代表取締役) 地域住民のご協力を得ながら事業を進捗。



▲コロナ対応など国や県の補助制度等を事業者へアドバイス 写真・右 企画課 伊賀課員 (G o T o O Z Uキャンペーンを実施中)



▲市内事業者向けにセミナーを実施。内閣官房所属の専門家を招き、歴史的建築物の改修方法について講義。今後も、観光まちづくりに関する講座を開催します。

沢井耳鼻咽喉科医院

院長 沢井 尚

大洲市中村432-2
電話 24-2510

料苑たる井

〒795-0052 大洲市若宮465-1
TEL(0893)24-4585 FAX(0893)24-6830

お食事処
の曲たる井

〒795-0054 大洲市殿町553-19
TEL(0893)24-3000 FAX(0893)24-5840



総合保険コンサルティング
株式会社 グッドウイン

トータル・ライフ・コンサルタント

松山支社

近田 信美

DofD認定プロデューサー
3級ファイナンシャル・プランニング技能士



〒791-8012 愛媛県松山市姫原3丁目1-5 WIN HILLS HIMEBARA 1F
TEL.089-994-8383 FAX.089-994-8383 携帯 090-6288-4897
E-mail:n.chikata@goodwin-net.co.jp
URL <https://www.goodwin-net.co.jp/>



株式会社 テラオ

代表取締役 寺尾 幸記

〒795-0075 愛媛県大洲市喜多山甲100番地
TEL 0893-25-2008(代) FAX 0893-25-3696
E-mail:k-terao@fine.ocn.ne.jp
携帯 090-3784-2076



有限会社 中野開発

信頼してみてください。

不動産事業部
中野 吉貴

〒795-0052
愛媛県大洲市若宮483番地
コスモポリタン中野No1 2F
TEL:0893-23-9160
FAX:0893-23-9170
E-mail:nakano.kfr.y@gmail.com
愛媛県知事(03)第4526号



中村皮フ科クリニック

院長 中村 浩二

大洲市新谷甲96

電話 0893-25-1112

(株)ケーブルネットワーク西瀬戸

代表取締役 西田 洋一

〒795-8603 大洲市徳森248
TEL:25-0212/FAX:25-0217



脇川産業株式会社

Hijikawa Sangyo Co.Ltd.

Insurance
Office

取締役副社長

富永 浩一郎

ファイナンシャルプランナー
(日本FP協会認定会員No.35005504)

〒795-0011 愛媛県大洲市柚木900-1
TEL:0893-24-2042 FAX:0893-24-2484
E-mail:hs2301@hs2301.com

川
柳

梶田与一

独特の

話術あれから四十年

少量の

塩が枝豆ひきたてる

守るより

攻める元氣な卒寿坂

「編集後記」

今年も長く暑い夏が続いていますが、汗を流しに浴室でシャワーを浴びていると、庭からコウロギの鳴き声が聞こえてきました。それでも暑い日は続きますが、風はもうすでに秋風です。雲はもう秋の雲です。早朝に寢室の戸を開けると、エアコンをかけた室内より廊下のほうの気温が低く、秋の訪れを肌で感じました。夏の暑さがおさまり、過ごしやすい涼しさになると、どこか寂しさを感じ、夏の終わりを惜しむ鬱陶気になります。

写真の説明 「おはなはん通り」

ドラマ「おはなはん」は、明治15年4月13日に国立第八十九銀行の取締役（頭取）深尾一次郎の二女として名東郡富田浦町（現徳島市幟町1丁目）に生まれた「深尾はな」の明るく生きた人生を、息子の林謙一（随筆家）が思い出をつづり、小野田勇氏が書き下ろしました。ドラマは生まれた徳島市でドラマ化をするつもりでありましたが、表面上は明治期の空襲で町の7割を焼失して、明治の町並みを表現できなかった事になっているが、実際はロケ等にかかる撮影隊の宿泊費用等の負担を徳島市が断ったことと、代わりに便宜を行ってくれることになった大洲市に舞台を変更にすることになったようです。